

## 小学校・道徳の内容項目の解説

# 尊敬・感謝

### ●小学校学習指導要領（平成20年3月）

2 主として他の人とのかかわりに関すること		〔一般的な呼称例〕
低学年	(4) 日ごろ世話になっている人々に感謝する。	感謝
中学年	(4) 生活を支えている人々や高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接する。	尊敬・感謝
高学年	(5) 日々の生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それにこたえる。	尊敬・感謝

### ●解説

関連の説明	広く人々や自己の生活の成り立ちに対する尊敬と感謝の念をもった児童を育てようとする内容項目である。主に、第3・4学年の2の(4)及び第5・6学年の2の(5)と深くかかわっている。
全体的な理解	よい人間関係を築くためには、互いを認め合うことが大切であるが、その根底には、相手に対する尊敬と感謝の念が必要である。人々に支えられ助けられて自分が存在するという認識に立つとき、相互に尊敬と感謝の念が生まれてくる。そして、それは、日々の生活、さらには自分が存在することに対する感謝へと広がり、生命尊重や人間尊重の精神を支えることになる。さらに、人々や公共のために役に立とうとするところまで指導を深めていくことが大切になる。
低学年	この段階においては、日常の指導などにおいて、身近で日ごろ世話になっている人々の存在に気付き、それらの人々の善意に感謝する気持ちを具体的な言葉に表し、行動に表す指導が求められる。その際、その人々が自分に寄せてくれた善意について考え、そのときに自分が感じた感謝の念について改めて考えることができるようにすることが大切である。
中学年	ここの段階においては、感謝する対象を、日ごろ世話になっている人々から日々の生活を支えている様々な人々へと広げる指導が求められる。特に、自分たちの生活のために働く人々や、長く自分たちの生活を築き、支え、努力を重ねてきた高齢者に対する理解を深め、尊敬と感謝の念をもって接することができるようにすることが大切である。
高学年	この段階においては、感謝の対象が人のみならず、多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っている日々の生活そのもの、更にはそのような中で自分が生きていることに対する感謝にまで広げることが必要である。そして、それにこたえて、自分は何をすべきかを自覚できるようにし、進んで実践できるところまで指導することが求められる。さらに、このようなことを通して、自分の心の中の感謝の気持ちが相手の心に届き、潤いのある人間関係が築かれるものであることを自覚できるようにすることが大切である。

文部科学省「小学校学習指導要領解説・道徳編」（平成20年8月）より

### ■参考：中学校学習指導要領（平成20年3月）

2 主として他の人とのかかわりに関すること		〔一般的な呼称例〕
(6) 多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、それにこたえる。	尊敬・感謝	